

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和2年8月25日	担当部署	産業観光交流部 産業政策課
-------	-----------	------	---------------

※以下は令和2年3月31日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人名	株式会社 よしかわ杜氏の郷		
代表者	代表取締役 土橋 均		
	<input type="checkbox"/> 常勤	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	<input type="checkbox"/> プロパー <input checked="" type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市吉川区杜氏の郷1番地		
設立年月日	平成11年3月21日		
資本金	184,150千円	市出資割合	82.6%
設立目的	酒米の生産と地酒醸造による消費者との結び付きにより地域農業の発展、農家所得の向上を図るため。		
主な事業	(1) 酒類の製造・販売 (2) 道の駅よしかわ杜氏の郷の管理運営		

3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	0	3	3	2	1	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	0	4	4	3	1	0

4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	3	3	0
その他	6	6	0
計	9	9	0

5 事業実績（概要）

- ・ 売上高は、80,666千円となり、例年（前々期）の年間売上との比較で11,779千円減（12.7%減）となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、催事の中止や団体旅行客の立ち寄りが減少したことから、当初の予定より約8,400千円減少したことが主な要因です。
- ・ 主力である酒造部門の売上高は、ホームページのリニューアルによるネット販売の強化や、新潟県内の道の駅での取組強化等により一部商品では売上の増加は見られたものの、全体としては例年（前々期）との比較で6,094千円の減の67,672千円となりました。
- ・ また、全国新酒鑑評会に出品した「よしかわ杜氏」が入賞し、翌期以降の販路拡大に期待を有する結果となりました。
- ・ 売店部門の売上高は、9,702千円となりました。前期に引き続き、観光会社への営業展開や定期的なイベントを実施した結果、店舗利用者数では例年（前々期）と同程度の9,907人となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費は、旅費や人件費等の全面的な見直しを行い、例年（前々期）との比較で4,966千円減（13%減）となりました。
- ・ この結果、営業損失は9,038千円、最終的な当期純損失は5,265千円となり、5期連続の単年度赤字を計上し、第22期末の累積欠損金は80,822千円となりました。

○ 部門別売上高実績

（単位：千円）

区 分	第20期 (H29.7～H30.6)	第21期 (H30.7～H31.3)	第22期 (H31.4～R2.3)
酒造部門	73,766	54,104	67,672
売店部門	11,503	8,255	9,702
その他	7,176	3,658	3,292
合 計	92,445	66,017	80,666

※ 第21期は、事業年度変更に伴い、9か月決算となっています。

※ その他の内訳は、市からの委託料や農産物販売所よしかわ四季菜の郷の管理料などです。

○ 店舗利用状況

（単位：人）

区 分	第20期 (H29.7～H30.6)	第21期 (H30.7～H31.3)	第22期 (H31.4～R2.3)
店舗利用状況	10,820	7,123	9,907

6 財務状況（税抜）

（単位：千円）

項 目		第 20 期	第 21 期	第 22 期
		自 平成 29 年 7 月 1 日 至 平成 30 年 6 月 30 日	自 平成 30 年 7 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日	自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日
損益計算書	売上高	92,445	66,017	80,666
	売上原価	64,386	40,298	56,664
	売上総利益	28,058	25,719	24,002
	販売費及び 一般管理費	38,005	29,652	33,040
	営業利益	△9,947	△3,933	△9,038
	営業外収益	1,781	992	4,097
	営業外費用	75	41	34
	経常利益	△8,241	△2,982	△4,975
	特別利益	0	0	0
	特別損失	0	0	0
	税引前当期純利益	△8,241	△2,982	△4,975
	法人税等	290	217	290
	当期純利益	△8,531	△3,199	△5,265
項 目		平成 30 年 6 月 30 日現在	平成 31 年 3 月 31 日現在	令和 2 年 3 月 31 日現在
貸借対照表	資 産	126,135	123,250	117,179
	負 債	14,342	14,656	13,850
	純資産	111,793	108,594	103,328
	資本金	184,150	184,150	184,150
	利益剰余金	△72,357	△75,556	△80,822
その他	0	0	0	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

※ 第 21 期は、事業年度変更に伴い、9 か月決算となっています。

7 市からの財政支出等

(1) 委託額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
①	道の駅よしかわ杜氏の郷管理業務委託料	3,237	3,287	3,292	
計		3,237	3,287	3,292	

(2) 財政援助額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
①	補助金 (助成金)	296	241	30	上越市雪室商品等開発支援事業補助金 (平成29、30年度) 上越市製造業人材育成支援事業補助金 (平成30年度、令和元年度)
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 ()	0	0	0	
計		296	241	30	

8 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

第23期は、売上高55,000千円、当期純利益1,000千円の計上を目標とし、新型コロナウイルスの感染予防のための新しい生活様式に対応するとともに、新たな顧客の獲得による新潟の地酒、上越の地酒としてのブランドの確立を目指します。

- (1) 新たな需要を生んでいる日本酒消費への営業活動
 - ・インターネット販売の日本酒新規需要店への営業活動
 - ・巣籠もり需要増に対してのスーパーマーケット等への営業活動
- (2) 店舗売上向上の推進
 - ・付加価値の向上により来店客増、客単価増の施策
 - ・日本酒だけでなく、地元特産品や特産物の販売
- (3) 組織の活性化
 - ・部署部門問わず横断的な仕事の共有による効率化
 - ・徹底的なコスト削減
 - ・施設内外の衛生管理と整理整頓の実施

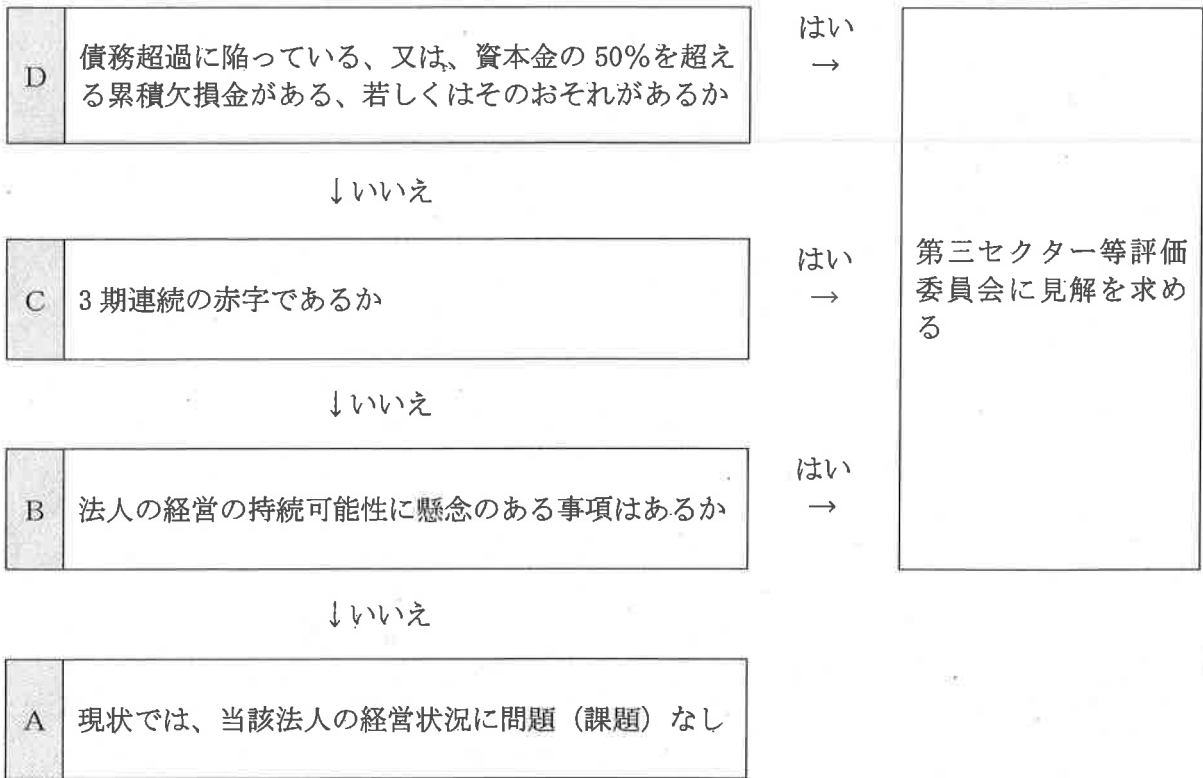
(2) 中長期経営計画

なし

9 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	C	→ BからD評価の法人は(2)へ
--------------	---	------------------

【特記事項】

5期連続で単年度赤字を計上し、第22期末の累積欠損金は80,822千円となり、資本金184,150千円に対する比率は43.9%になりました。

(2) 第三セクター等評価委員会の分析・評価

第三セクター等評価委員会の評価
<input checked="" type="checkbox"/> 課題あり <input type="checkbox"/> 課題なし
第三セクター等評価委員会の分析
【上記評価の理由】 ① 売上の減収に歯止めがかかっておらず、赤字体質のままである。経営戦略やマーケティング戦略を構築し売上及び販路を拡大する必要がある。 ② 過去から比較すると原価率が大きく増えてきている。販売する商品によって原価率は変動するが、原価率の変動に柔軟に対応し、原価率をコントロールする必要がある。
【その他指摘事項等】 ③ ライバル製品と比較した時の自社製品の差別化できるポイント、あるいは訴求ポイントを明確にし、ポジショニングを築くべきである。 ④ 他の第三セクターの飲食・宿泊施設で、当社製品を取り扱ってもらったらどうか。 ⑤ 累積欠損金が増加傾向であり、債務超過に陥る可能性がある。現時点から、民間事業者への株式譲渡による民営化を検討してはどうか。

(3) 分析・評価結果を受けての対応方針

第三セクターによる対応方針
① コロナ禍である現状を踏まえ、インターネット販売や地域住民への販売を強化し、スーパーマーケット等の大型店舗への営業活動を行うとともに、新たな販路獲得に努める。 ② 売れ筋商品を見極め、製造する商品の見直しを行い、材料費や労務費等を削減し、原価率の抑制に努める。 ③ 会社の原点である、「良質な酒米」「清冽な酒造りに最適な水」「培われてきた伝統（杜氏）の技」による吉川ならではの酒造り、酒文化の継承を目的に営業活動を行っていく。 ④ 現在、取引がある第三セクターも含め、営業を強化する。 ⑤ まずは、上記①から④の対応等による経営健全化の取組を進め、累積欠損金の圧縮を図る。
市担当部署による対応方針
・当社の設立目的を踏まえ、地域や他の株主などの関係者と協議をしながら、あらゆる方向性を検討していく。

第 22 期 事業報告書

日本酒業界を取巻く状況は依然として厳しい状況にあり、特に新潟県産酒には大きな変化があった 2019-2020 年と言えます。新潟有名ブランド酒蔵が特約店制度を一部廃止し、県内スーパーに一斉に並ぶ状況があり、中小の酒蔵にとって売上のベースであった SM (スーパーマーケット)・GSM (総合スーパー) の売り場が有名酒蔵の商品で埋められ、特約店として有名酒蔵を取扱ってきた酒販店にとっても大きな混乱をきたし、来店動機を失ってしまった事は大きな変化と言えます。

そのような状況の中、第 22 期におきまして次の施策を実行しました。新規企画の実施やホームページリニューアル、新潟県内道の駅での取組強化等により一部では売上の増加は見られたものの、折からの景気後退による消費の落込みから、当初計画した通りの成功とは言えず、例年の年間売上との対比では約 1,000 万円の落込みとなりました。

取組内容は次のとおりです。

- ① 市生協・JA職員向けの組織団体への新企画提案
- ② 市内外取引店舗への営業強化
- ③ 道の駅等試飲販売強化と催事でのプロモーションを通じた販売促進
- ④ ホームページをリニューアルし、ネット販売の強化
- ⑤ 海外への輸出の強化
- ⑥ デパート等ネットワークを活用したマーケットの構築
- ⑦ 雪室仕込みのセット販売強化
- ⑧ 大手通販サイトとの取引拡大
- ⑨ 観光酒蔵としての情報発信と近県旅行会社へのセールス

第 22 期

決算報告書

平成 31 年 4 月 1 日から
令和 2 年 3 月 31 日まで

目 次

1. 貸借対照表および損益計算書
2. 株主資本等変動計算書
3. 個別注記表

所在地 新潟県上越市吉川区杜氏の郷1番地

商 号 株式会社 よしかわ杜氏の郷

代表者名 代表取締役 土橋 均

貸借対照表

令和 2年 3月 31日現在

代表取締役 土橋 均

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産	57,492,286	I 流 動 負 債	11,022,722
現金及び預金	3,896,567	買掛金	2,536,553
電子記録債権	351,607	1年以内返済長期借入金	2,459,000
売掛金	7,877,529	未払消費税等	3,524,455
たな卸資産	45,054,372	未払法人税等	865,100
前払費用	259,551	未払消費税	1,608,600
未収入金	52,432	前受	29,014
未収還付金等	228		
II 固 定 資 産	59,686,386	II 固 定 負 債	2,827,764
有形固定資産	58,290,999	長期未払金	2,827,764
建物	35,774,567		
構築物	2,649,387		
機械及び装置	1,562,923		
車両運搬具	1		
工具、器具及び備品	167,508		
土地	15,898,270		
リース資産	2,238,343		
無形固定資産	1,277,167	負債の部合計	13,850,486
リース資産	1,053,500	(純資産の部)	
ソフトウェアー	183,667	I 株 主 資 本	103,328,186
電 話 加 入 権	40,000	1. 資 本 金	184,150,000
投資その他の資産	118,220	2. 資 本 剰 余 金	0
投資有価証券	50,000	3. 利 益 剰 余 金 (△)	80,821,814
出資	60,000	(I)その他利益剰余金 (-80,821,814
サイクル預託金	8,220	繰越利益剰余金 △	80,821,814
III 繰 延 資 産	0	II 評 価 ・ 換 算 差 額 等 (0
		III 新 株 予 約 権 (0
		純資産の部合計	103,328,186
		負債・純資産の部合計	117,178,672
資産の部合計	117,178,672		

損益計算書

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 売上高 売上引戻り	81,586,881	81,586,881 △ 921,121	80,665,760
II 売上原価 期首仕入 当期製品製造原価 期末仕入 売上総利益	6,284,746 7,099,700	37,720,578 13,384,446 44,263,994 95,369,018 38,704,998	56,664,020 24,001,740
III 販売費及び一般管理費 販売費及び一般管理費 営業損		33,039,540	33,039,540 9,037,800
IV 営業外収益 受取配当		55 1,092 4,095,678	4,096,825
V 営業外費用 支替利息差 利息損		34,152 71	34,223
経常損失			4,975,198
VI 特別利益		0	0
VII 特別損失		0	0
税引前当期純損失			4,975,198
法人税、住民税及び事業税		290,000	290,000
当期純損失			5,265,198

販売費及び一般管理費の計算内訳

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
販売費	886,882
旅伝	1,635,386
装費	2,546,030
進費	2,673,157
進教	1,636,295
料副	1,160,101
与与	225,000
費費	10,388,138
費費	1,208,855
費費	1,380,760
費費	755,813
費費	1,710,509
費費	216,000
費費	689,399
費費	338,892
費費	463,232
費費	1,150,479
費費	1,644,728
費費	1,000
費費	538,345
費費	128,995
費費	439,302
費費	340,643
費費	618,204
費費	263,395
合 計	33,039,540

製造原価報告書

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 材料	買 3,229,880
期首材料仕入	高 21,012,439
期末材料仕入	計 24,242,319
当期材料	卸 3,322,948
	高 20,919,371
II 労務	費 10,763,509
賃退法厚当	金 294,000
職福生	金 1,354,684
利	費 665,862
期 務	費 13,078,055
III 経電	費 2,729,819
力水道	代 51,063
減償	料 140,871
修繕	費 2,594,807
租保	費 1,025,155
税 除	課 1,271,252
耗 品	料 244,575
期 経	費 1,786,578
当期製造費用	費 300,000
期首仕掛品	計 10,144,120
期末仕掛品	高 44,141,546
当期製造原価	卸 559,599
	計 44,701,145
	高 437,151
	計 44,263,994

たな卸資産の計算内訳

令和 2年 3月 31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商製	品 765,527
半製	品 8,076,656
原材	品 29,862,815
仕掛品	料 3,322,948
貯蔵	(半成品) 437,151
合 計	品 2,589,275
	計 45,054,372

株主資本等変動計算書

平成31年 4月 1日から

令和 2年 3月31日まで

(単位:円)

I 株主資本			
1. 資本金	当期首残高		184,150,000
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>184,150,000</u>
2. 利益剰余金			
(1) その他利益剰余金	当期首残高		-75,556,616
繰越利益剰余金	当期変動額		
	当期純損失	-5,265,198	-5,265,198
	当期末残高		<u>-80,821,814</u>
その他利益剰余金合計			
	当期首残高		-75,556,616
	当期変動額		
	当期純損失	-5,265,198	-5,265,198
	当期末残高		<u>-80,821,814</u>
株主資本合計			
	当期首残高		108,593,384
	当期変動額		
	当期純損失	-5,265,198	-5,265,198
	当期末残高		<u>103,328,186</u>
II 評価・換算差額等			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
III 新株予約権			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
純資産の部合計			
	当期首残高		108,593,384
	当期変動額		
	当期純損失	-5,265,198	-5,265,198
	当期末残高		<u>103,328,186</u>

個別注記表

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月 31日まで

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法を採用しております。
2. 固定資産の減価償却方法
 - (1)有形固定資産
定率法又は旧定率法を採用しております。
ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法を採用しております。
 - (2)無形固定資産
定額法を採用しております。
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
 - (3)リース資産
法人税法の規定に基づくリース期間定額法を採用しております。
3. 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

II. 表示方法の変更に関する注記

1. 科目の分割
「販売促進費」は、従来「広告宣伝費」に含めて処理しておりましたが、当期から区分して表示しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 152,039,752円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 3,683株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、28,055.44円であります。
2. 一株当たり当期純損失は、1,429.59円であります。

以上

監査報告書

第22期決算監査の結果、貸借対照表、損益計算書および損失処理について、
いずれも適法かつ正確であることを認めます。

令和2年5月28日

株式会社よしかわ杜氏の郷

監査役

山下

山本

第23期事業計画書

1 事業方針

弊社は越後杜氏、くびき杜氏の支流源の一つである『よしかわ杜氏』が育んだ元禄4年から続く酒造りの歴史をもとに、地元よしかわ産《五百万石》《山田錦》の酒米と、ブナ林の伏流水、よしかわ杜氏の技術等豊富な地域資源を有し、食文化にも欠かせない日本酒を製造しています。

酒造業界においては若者を中心に日本酒離れが一層進み、食文化の変化、更には2020年3月から新型コロナウイルス感染症により経営状況は厳しい状況にあり、観光来客数が激減し、終息から景気の回復までには未だ先行きが見えない状況にあります。

そのような中、《新たな生活様式》に対応するとともに、新たな顧客を獲得による、新潟の地酒、上越の地酒としてのブランド確立を目指します。

2 事業計画

(1) 新たな需要を生んでいる日本酒消費への営業活動

- ① インターネット販売の日本酒新規需要店への営業活動
- ② 巣籠もり需要増に対してのSM・GSMへの営業活動

(2) 店舗売上向上の推進

- ① 単なる観光客増よりは付加価値の向上により来店客増、客単価増の施策
- ② 日本酒だけでなく、地元特産品、特産物の販売や吉川特別支援高校の製作物の販売

(3) 組織の活性化

- ① 部署部門問わず横断的な仕事の共有による効率化
- ② 徹底的なコスト削減
- ③ 施設内外の衛生管理と整理整頓の実施

第23期事業収支計画書

(単位:円)

	第23期計画	構成比	前年比	第22期実績	構成比
売上	55,000,000	100.0%	68.2%	80,665,760	100.0%
売上原価	29,000,000	52.7%	51.2%	56,664,020	70.2%
売上総利益	26,000,000	47.3%	108.3%	24,001,740	29.8%
販管費・一般管理費	25,000,000	45.5%	75.7%	33,039,540	58.3%
営業利益	1,000,000	1.8%	-11.1%	△ 9,037,800	-11.2%
営業外収益	0	0.0%	0.0%	4,062,602	5.0%
経常利益	1,000,000	1.8%	-20.1%	△ 4,975,198	-6.2%